

- 募金件数： 316 件
- 募金総額： 3,091,566 円
- 対象期間： 2011 年 10 月 1 日～2012 年 9 月 30 日

ラブ・ローフ募金により、開発途上国で食糧不足に苦しむ人々のための活動を行い、内戦、災害や貧困により栄養不良にある子どもたちなどの状況を改善することができました。



コンゴ民主共和国(東部)

内戦被害により食糧不足に陥った子どもたちへの支援

内戦により、約 120 万人(半数は 18 歳未満の子ども)が国内避難民となり、不安定な治安のため農業を営むことができず、深刻な食糧不足に陥りました。子どもたちは学習する体力を失い、7 割の子どもたちが登校できなくなりました。



小学校で給食支援を受ける子どもたち(コンゴ民主共和国)

南北キブ州において、食糧配布と、多くの子どもたちが学校に行くことで栄養が改善されるように学校給食支援を行いました。約 14 万人の子どもたち、約 3,500 人の教師、約 8 万 8,000 人の国内避難民に合計約 5,000 トンの食糧を届けました。

地域の人々や生徒の親が構成する給食委員会が中心となって食糧配給を行い、人々自身が調理に使う薪を持ち寄るなど、活動に積極的に参加しました。

さらに、約 15 万人の子どもの健康改善のため、寄生虫を体外に出すための駆虫薬を配布しました。健康状態が改善され、子どもたちは集中して勉強することが可能になりました。

学校給食の支援を受けたムニヒレくん(小学校 6 年生、コンゴ民主共和国)

ぼくの家はとても貧しいので、ワールド・ビジョン(以下、WV)がぼくたちに給食の支援をしてくれて、とてもうれしく思いました。以前はおなかがつらかったので、授業の途中で家に帰っていましたが、学校給食が始まってからは、きちんと勉強できるようになりました。小学校 3 年生の弟もこの給食により、今は元気に勉強しています。

タンザニア共和国

支援を受ける人々の積極的な参加により食糧支援を行いました

タンザニア北西部には、紛争を避けてブルンジとコンゴ民主共和国から逃れてきた多くの難民が暮らしています。コンゴ民主共和国では未だに武力紛争が続き、母国への帰還は困難です。2008 年に停戦合意がされたブルンジも難民が帰国することができず、多くが難民キャンプに残ったままです。そのため、各地の難民キャンプでは食糧が不足していました。

キゴマ州のニャラグス難民キャンプおよびムタビラ難民キャンプで生活する約 6 万 2,500 人を対象に、穀物、豆類、植物油、CSB(トウモロコシと大豆にビタミン強化したおかゆの素)、塩などを合計約 1 万 3,920 トン配布しました。

出身や宗教などからくる人々の食文化に配慮した内容で 2 週間に 1 度配布し、必要な量の食糧が平等に全員に行き届くように、対象を小グループに分けて配布を行いました。また、食糧を安全に、また衛生的に管理できるように、食糧倉庫の管理体制を整えました。



ケニア

干ばつで苦しむ人々、食糧を手に入れることができない人々へ、食糧支援を行いました

「アフリカの角」と呼ばれる北東部の国々(ケニア、エチオピア、ソマリア)では、2011年、過去約60年の中で最悪といわれる干ばつが発生し、1,240万人以上の人々が食糧危機に陥りました。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、とくにケニアの人々のために支援を行いました。

リフトバレー州東ポコト県に住む、干ばつにより家畜を失った人々、食糧を得ることが難しい人々、また、母子家庭、子ども世帯、高齢者、障がい者などの弱い立場に置かれている人々約6万5,000人に対する食糧支援を行いました。また、西ポコト県において、干ばつによる急激な食糧の減少、伝統的農業による土地の劣化、食糧価格の高騰などで、食糧を手に入れることが難しく、とくに弱い立場に置かれている7万3,254人を対象に、食糧支援を実施しました。



WVから食糧支援を受けた家族(ケニア)

ザンビア

酪農普及の支援で、子どもたちの栄養不良が改善されました

ザンビアの人々は、小さな畑で食糧を確保する貧しい小規模農家が、大多数を占めます。メイズ(トウモロコシの一種)、ソルガム(穀物の一種)などの作物は、家族が食べる分しか収穫がなく、余剰による収入はありません。また近年の干ばつや不規則な降雨により収穫が非常に不安定となり、伝染病の蔓延で家畜を失うなど、生活はさらに困難となりました。

WVJは2010年から、貧困の厳しいマザブカ郡マゴエ地区で、酪農支援を行っています。酪農で得ることができるようになった牛乳は、子どもたちの栄養はもちろん、販売することで収入向上にもつながりました。これまで、雌牛を貸与した70世帯に対して、技術や経営などの研修を行いました。また飼料となる牧草の種を提供し、畑の造営を指導しました。十分な牧草を自給できるようになれば、牧草が育たない乾期に備えて飼料を蓄えることができ、1年を通して牛乳の質と量の安定が可能となります。

また、人々から獣医の仕事を担う人10名を選任し、家畜の医療衛生の基本を伝え、家畜の病気や怪我に対応することが可能になりました。これまで地域には常駐の獣医師がいなかったため、遠い町にある地区獣医局に頼らなければなりませんでした。医療衛生サービスがいつでも受けられるようになりました。



貸与した牛から生まれた仔牛。出産の際、獣医役の人によって取り上げられました(ザンビア)

★ラブ・ローフ募金は、上記以外にも、世界食糧計画(WFP)などとの協力により、ウガンダやパキスタンなどで様々な食糧・水支援事業に用いられました。

■お問い合わせ、 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

募金箱のご請求は 〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー3F
電話 0120-465-009 ※受付時間 平日 9:30~19:00 FAX03-5334-5359
Email: dservice@worldvision.or.jp

募金箱は、ホームページからもご請求いただけます

ワールド・ビジョン ラブ・ローフ

検索

または <http://www.worldvision.jp>